

# 2021年度事業計画

2021年 4 月 1 日  
公益財団法人 日本セーリング連盟

2021年度事業計画

公益財団法人 日本セーリング連盟

総務委員会 委員長: 安藤 淳

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>Vision Open Community/Easy Accessに関連する事業</b>			
<b>事業1)公益財団法人としての組織運営への対応</b>			
(1)中央競技団体としての更なる自律・自立を目指し、将来方向(ガバナンス強化、組織・財務基盤の強化、運営の適正・合理性の確立、加盟・特別加盟団体との連携強化)を見据えた諸規程・基準の継続的見直しと、運用面での適正な実施を関係委員会と連携して行う。	通年	JSAF事務局会議室他	・公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化。
(2)スポーツ・インテグリティ、ガバナンス向上、ジェンダー・イコール、LGBT対応等の諸課題に対する研修事業の企画立案(研修内容、研修対象の選定)及び実施を関連委員会と連携して行う。	通年	JSAF事務局会議室他	JSAFコンプライアンス研修の継続的実施を目指す。 2020年度研修内容の録音、録画を行い、次年度以降の活用を検討する。  スポーツ団体ガバナンスコードへの対応(自己説明・公表、2021年度適合性審査受審)に万全を尽くす。(虎ノ門協同法律事務所による支援継続)  (2020年度は、虎ノ門協同法律事務所による支援により実施。(自己説明内容チェック、関連規程の2020b年度内改訂、コンプライアンス研修内容検討、研修実施、JSAF加盟団体向け指導内容検討、他)
<b>事業2)会員管理新システム運用を通じた加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上</b>			
(1)年会費決裁代行への原則移行、カード会員証の原則廃止について、加盟・特別加盟団体の要望を踏まえて適切に進める。	通年	JSAF事務局会議室他	・JSAF財政健全化
(2)会員管理新システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟(特別加盟)団体に対する更なるサービスの質的量的向上を実現する。	通年	JSAF事務局会議室他	・加盟団体、会員向けサービスの継続的向上
(3)JSAFが管理する情報システム(ホームページ、会員管理システム)のサイバーセキュリティ上の脆弱性を検証し、必要な対策を講ずる。(広報委員会連携)	通年	JSAF事務局会議室他	・会員情報の適切管理。
<b>事業3)JSAF公認・後援(加盟・特別加盟団体主催)行事における適正運営の継続的実施</b>			
(1)JSAFが公認・後援し加盟(特別加盟)団体が主催するレース等の行事(日本開催の世界選手権を含む)の実施に対して、安全管理対策の徹底(事故報告体制構築)を関連委員会とともに進める。	通年	JSAF事務局会議室他	安全管理の対策の徹底を目的として、事故情報のJSAF内共有をはかる。
(2)同上行事における、主催者保険の付与の徹底を継続して推進する。	通年	JSAF事務局会議室他	
<b>事業4)JSAF事務局業務の効率化の推進</b>			
(1)IT機器を含めた事務機器の効率的活用を検討し、JSAF事務局業務の効率化と組織内コミュニケーション能力の向上を図る。	通年	JSAF事務局会議室他	・JSAF財政健全化、及びJSAF加盟団体、会員向けサービスの向上。 【JSAF事務局と総務委員会の役割分担の明確化検討:JSAF事務局体制強化検討の中で対応。】
(2)JSAF運営資料のデータベース化を促進し、ペーパーレス化及び業務内容の質的向上を実現する。	通年	JSAF事務局会議室他	・ニューノーマルへの対応を踏まえ、総務委員会のオンライン開催の定常化を実現する。
<b>事業5)JSAF組織活性化へ向けた取り組みの推進</b>			
(1)加盟(特別加盟)団体や各委員会との連携を強化しながら、定期表彰における規程や基準の見直し、新規施策の検討を進めるとともに、計画的な実施に努める。	通年	JSAF事務局会議室他	・JSAF組織活性化及び財政健全化。
(2)加盟団体/特別加盟団体と一体になったビジョン/中長期計画の策定へ参画する。	通年	JSAF事務局会議室他	【2021年度中の中長期計画策定を2020年度自己説明にて表明済。】  【原則1 2030年度をゴールとする長期目標、および2022年から始まる4年間の中期計画を2021年度中に策定し、2022年度には公表する予定。】  【原則2 人材の採用及び育成に関する計画も策定する予定。】
(3)2020東京オリンピック・パラリンピック終了以降を視野に入れ、財政委員会他関係委員会との更なる連携により、JSAF運営体制の強化を図る。	通年	JSAF事務局会議室他	
<備考:反省点等> 2021年度前半は、ガバナンスコード対応(適合性審査受審)を最優先にて実施する。 2021年度後半は、JSAF中長期計画、人材採用・育成計画策定に注力する。			

財政委員会 委員長: 松田一隆

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>Vision Open Community/Easy Accessに関連する事業</b>			
<b>事業1)</b>			
1. 経営基盤の強化。支払・発注手続きの浸透及び徹底	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度より改定した新申請フォームにより各専門委員会から日々上がってくる支払・発注の申請の内容確認を行うほか、公益財団法人に求められるコントローラシップの質の向上に努める。</li> <li>・JSAF事務局の負担の軽減はコントローラシップの質を高めることにつながることから、事務局と協力して支払、会計処理等に関する事務手続きの改善にあたる。</li> <li>・源泉徴収関係の確認、添付された証憑の妥当性についての検証を継続する。</li> </ul>
<b>事業2)</b>			
2. 適切な予算執行と会計報告の推進と管理	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSAF事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に関し、評議会・理事会等への報告の適時性と透明性の確保を向上させる。</li> <li>・足元の財政状況についての情報提供を促進し、帳票類の整備を漸進させる。</li> </ul>
<b>事業3)</b>			
3. 健全な財政基盤の確立	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会の事業促進が承認された方針・計画に基づいて円滑に実施できるよう財政施策面からの支援を行う。</li> <li>・足元の財政状況についての情報提供を促進する。</li> </ul>
<b>事業4)</b>			
4. 中長期的な観点からの事業収支管理の強化と適切な会計処理	通年	基本的にリモートでの会議を中心とした活動を想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政基盤の健全化の前提として、JSAFの事業内容や規模を中長期的に見直す必要がある観点から、資金の流れと資金の潜在的ニーズの把握に努める。</li> <li>・各種監査に対しては適切かつ迅速な対応を行い、指摘やアドバイスを得た場合はコントローラシップやガバナンスの向上に役立てる。</li> </ul>
<p>&lt;備考:反省点等&gt;  上記を含むJSAFとしての組織横断的な財政面の課題検討は、財政健全化プロジェクトの取り組みとして進めることとする。</p>			

事業開発 委員会 委員長：安藤正雄

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXに関連する事業</b>			
<b>事業1)</b>			
会員向け公認ロゴグッズの供給	通年	ネット及び事務局受付	売上高では、期待はできない
<b>事業2)</b>			
通販事業	通年	委託先ネット受付等	JSAFとして信頼に欠けない確りとしたセキュリティーが必要、諸経費も嵩む
<b>事業3)</b>			
社会との連携	通年	全国地域	企業とのコラボ商品開発、マリン業界との共栄共存、JSAFの社会貢献活動指針による指導を必要とします。
<p>&lt;備考:反省点等&gt;  数年、委員会として務めておりますが、事務局の皆様のご支えでこれまで無事に来られましたこと深く感謝しています。引き続き宜しくお願いします。</p>			

広報 委員会 委員長：柳澤康信

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>事業1) もっと強くなる High Performance</b>			
J-SAILINGの刊行 2021年度の選手競技報告を中心に、JSAF社会・事業活動等をまとめた	年度末		・スポンサーにNT活動を報告。理解を深めていただき、継続的に応援・支援してもらう。 ・会員にもレース活動、JSAF事業活
<b>事業2) もっと強くなる High Performance、もっと身近になる Easy Access</b>			
ナショナルチームの情報発信管理 オリンピック強化委員会と協業しながら ・マスコミ対象にしたリリースの制作・配信 ・選手・競技理解促進を図るプレスデイの実施。 ・会員、一般むけにはホームページで情報提供をはかる。	通年		・セーリング競技の情報を社会に発信することで、セーリングへの理解啓蒙を図り、新しいセーリングファンを獲得、自らも「セーリングを体験してみたい」と関心を喚起 する。
<b>事業3) 関わり続ける Open Community、もっと身近になる Easy Access</b>			
JSAFホームページ管理・運営 ・NT選手競技活動、JSAF事業・各委員会の活動をタイムリーに情報提供する。 ・各委員会、JSAFメインサーバー利用中の加盟団体のコンテンツ 更新やサイト構築のサポートを行う。 ・事務局、総務委員会とも協業しセキュリティ強化対策を行う。 また JSAF役員、メインサーバー利用中の加盟団体担当者も含め セキュリティに対するリテラシーの向上も図る。	通年		・会員・関係者に対しJSAF活動の理解を促進し、応援・支援を得る・社会一般にもセーリング競技・JSAFの理解啓蒙を図り、セーリングに関心を持ってもらえるきっかけとなる。

環境委員会 委員長: 代行 永井真美

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1) 環境キャンペーン</b>			
環境キャンペーン	通年	各全日本大会会場	各大会ごとに環境への意識、啓蒙に関し、何が必要で何ができるか自分達で考え、高めることにより、よりサステナブルな大会を可能にしていく。 これらの成果をスポンサー企業、JOC等へ広げていくことにより広く一般にもセーリングのexposureを高めていくことにつなげる。
<b>事業2) 環境啓蒙活動</b>			
国体へのイベント代替案(詳細検討中)	2021年 10月	三重国体	今回はコロナにより密になる可能性のある集客を見込んでのイベントは不可となったが、それに代わるものとして大会プログラム、配布物、映像等の有効活用によりセーラー、運営関係者以外にも広く一般に環境意識向上を図る。
既存のツールを使っている環境啓蒙活動	通年	未定	WS, JOC, JSAFの環境啓蒙のためのワークブック、パンフレット、映像の活用により広く環境意識向上を図る。WS JOC等との連携を深める。
<b>事業3) 環境保全活動</b>			
既存のグッズを使っている環境保全活動	通年	未定	ペットボトルホルダー、アイドリングストップステッカー等の活用により海へのプラスチックごみの削減、Co2排出削減効果
新規アイテムの開発	通年	未定	環境保全、スポンサー支援

レディース委員会 委員長: 富田 三和子

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>Vision2-3に関連する事業</b>			
<b>事業1) チャイルドルーム開設</b>			
未就学児の子どもを持つ女性選手・役員・指導者が、大会に安心して参加できることを目的としチャイルドルームを開設する	6月8日~15日	江の島ヨットハーバー	海外の選手のお子さんも受け入れることにより、JSAFが2002年からチャイルドルームの開設に取り組んでいることをワールドセーリングに対しアピール 国体では観戦に訪れた保護者のお子さんも預かることにより、セーリングのファン拡大にも効果が望める
	7月25日~8月4日	江の島ヨットハーバー	
	9月9日~12日	千葉市稲毛ヨットハーバー	
	9月24日~29日	三重県津ヨットハーバー	
<b>事業2) 第4回レディース委員会主催情報交換会</b>			
女性が、生涯セーリングに親しむことができるための具体的な方策を話し合うことを目的とし、各団体の意思疎通を図る	11月に予定	スポーツマンクラブ	それぞれの団体において、女性会員の比率をアップ
<b>事業3) オリンピック壮行会実行委員会</b>			
オリンピック壮行会の開催に向けて、総務・広報委員会等・事務局と連携し準備と運営を行う	4月上旬第1回実行委員会 必要に応じて実行委員会を開催 壮行会: 7月9日	JSAF事務局	セーリングの認知率をアップ

アスリート委員会 委員長: 関 一人

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1)</b>			
オンラインでのトップセーラーからのクリニック	不定期	オンライン	このご時世の中、地方のセーラーに対してどのような事ができるのか、トップ選手たちがどのように考えているのかなどを地方のセーラー、ヨットを始めたばかりの子供達などに伝える活動を行う。

ルール委員会 委員長: 増田 開

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionI 関わり続けるJIに関連する事業</b>			
<b>事業1) ルール関連資料の翻訳・発行</b>			
競技規則であるRRSとWorld Sailing規程の一部、アデンダムQなどの試行規則、競技規則の公式解釈であるケースブック、コールブックと規則42解釈、Q&Aとトビッドレスボンスコールなど、World Sailingの発行するルール関連資料とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	World Sailingからの公開の都度	-	セーリング競技の根幹である競技規則と規則解釈を日本語訳して、国内セーラーに提供する。
World Sailing発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	World Sailingからの公開の都度	-	国内レースの質の維持・向上を目的とし、国内ジャッジ/アンパイアのレベル維持・向上を図る。
<b>事業2) 国際ジャッジ・アンパイアの育成</b>			
国内IJ/IU候補者に海外レース等を経験させるための機会獲得支援と渡航費補助を行う。	都度	-	日本人IJ/IUを継続的に輩出することで、JSAFの情報収集力の向上と、JSAFとしての世界での地位向上を図る。
国内で開催される国際大会において、その主催団体からJSAFによるジャッジ・アンパイアの推薦枠が与えられた場合に、国内IJ/IU候補者から選考して派遣する。	都度	-	日本人IJ/IUを継続的に輩出することで、JSAFの情報収集力の向上と、JSAFとしての世界での地位向上を図る。
JSAFからWorld Sailingに推薦するIJ/IU候補推薦者選定のためのIJ/IU候補推薦委員会を開催する。	7月	オンライン	日本人IJ/IUを継続的に輩出することで、JSAFの情報収集力の向上と、JSAFとしての世界での地位向上を図る。

アジア諸国のIJ/IU候補者のJSAFが主催する国際大会への来日支援のため渡航費補助を行う。	都度	—	特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイアの育成にも貢献することで、JSAFとしての世界での地位向上を図る。
<b>事業3) ナショナルA級ジャッジ/アンパイア講習会の開催</b>			
A級ジャッジ更新講習会の開催: 前年度開催分での未更新者を対象に、追加の更新講習会を複数開催する。開催日程と開催回数は、前年度未更新者数等を確認した後に決定する。	4月～6月	オンライン	国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルA級ジャッジを養成する。
A級ジャッジ認定講習会の開催: 国体開催予定地2箇所でのオンサイト開催に加えて、前年度開発したオンライン試験ツールを活用してオンラインでも開催して受験機会の提供を拡大する。	7月、10月、1月、2月	栃木、鹿児島、オンラインx2回	国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルA級ジャッジを養成する。
アンパイア更新講習会の開催: 海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して開催する。新型コロナウイルスの影響等により前年度開催分も含めて開催機会が十分に確保できなかった場合には、更新期日を超えての追加開催も検討する。	5月、(都度)	葉山、(未定)	国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルアンパイアを養成する。
アンパイア認定講習会の開催: 海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して1～2回開催する。	未定	未定	国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルアンパイアを養成する。
ジャッジ・クリニックの開催	1月～3月	全国各地8箇所程度	国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルA級ジャッジの更なるスキルアップを図るとともに、ナショナルB級ジャッジにA級へのステップアップを支援する。
<b>事業4) ナショナルB級ジャッジ講習会の開催</b>			
新規NJ-B認定講習会と認定試験を実施する加盟団体・特別加盟団体に、試験問題と講習用補助資料を提供する。認定証発行やデータベース入力など認定管理業務を行う。	加盟団体・特別加盟団体による開催の都度	—	初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体を支援し、国内レースの質の維持・向上を図る。
<b>事業5) 指導者・選手向けルール講習会の開催</b>			
1月～5月に全国20カ所程度(うち2021年度内は15箇所程度)で、主に初級選手やその指導者を対象としたルール講習会を開催する。	1月～3月	全国各地15箇所程度	特に初級選手やその指導者へのスポーツマンシップの普及と、スポーツマンシップの根幹であるルール理解を促進する。ルールに関連したゲーム性の観点からセーリング競技の魅力伝える。
<b>事業6) 指導者育成支援</b>			
日本スポーツ協会の認定する指導者資格の更新条件であるJSAF主催講習会等としてルール委員会の主催する講習会を提供し、日本スポーツ協会データベースへの登録業務を代行することで、普及指導者委員会の進める事業を支援する。	都度	—	普及指導者委員会進める指導者育成への貢献。
<b>VisionI もっと強くなるJに関連する事業</b>			
<b>事業7) アンパイア制レースの普及</b>			
加盟団体・特別加盟団体への働きかけによりメダルレースを含むアンパイア制フリートレースやチームレースの計画を促すと共に、アンパイア制大会実施のためのノウハウの提供やアンパイアの紹介などの支援を行う。新たにアンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象に、チーフアンパイアを派遣して派遣費用を補助する。	都度	未定	世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、アンパイア制レース大会の主催団体となりうる加盟団体・特別加盟団体と一体となって中長期的に推進するためのビジョン共有と連携体制構築を図る。
アンパイア・クリニック等の開催: アンパイア制レースの行われる大会の機会を利用して、アンパイア・クリニックや、選手等も対象としたアンパイア制レース・クリニックを開催する。	都度	未定	世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、アンパイアのスキルアップ、アンパイア候補の発掘・養成、アンパイア制レースの普及を図る。
<b>事業8) 外洋艇レースの普及支援</b>			
オリンピック新種目となったオフショアレース参加に向けた活動を、ルール・ジャッジ等の面で支援する。	都度	—	オリンピック参加を目指す選手、関係者への適切な情報提供。
国内のダブルハンドを中心とするショートハンドのオフショアレースの活性化を、ルール・ジャッジ等の面で支援する。	都度	—	必要な情報や支援の提供による、外洋艇推進グループが目指す外洋艇レース関係人口増加への貢献。
<b>全てのVisionIに関連する事業</b>			
<b>ルール委員会の開催</b>			
委員会事業を遂行するために年3回の委員会(オンライン1日x2回、オンサイト2日x1回)を開催する。	6月、12月、3月	オンラインx2回、未定	委員会事業の円滑な遂行
<b>ルール・ジャッジ・アンパイア情報の展開</b>			
ルール委員会WEB、加盟団体/特別加盟団体の代表者のメーリングリスト、及び、A級ジャッジのメーリングリストでの情報展開と、そのためのメーリングリストと名簿の保守・管理・窓口業務	都度	—	ルール・ジャッジ・アンパイアに関するJSAFとしての会員サービスの実施

レースマネジメント委員会 委員長: 大庭 秀夫

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1)レースオフィサーセミナー(新規認定 講習・試験)</b>	・レースオフィシャルズの資格認定を通して、レースマネジメント・レース運営のスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。		
NRO認定セミナー 講習・試験を実施する。 (JSAF RO規程に基づく措置)	11月	東京	AROを対象にしたNRO認定セミナーを1回実施する
ARO認定セミナー 講習・試験を実施する (JSAF RO規程に基づく措置)	5回実施	全国各水域	NROを補佐し、水域レベルのレースを主体的に運営し、将来のNRO候補を養成するため、AROセミナーを全国5会場で実施する。
LRO認定セミナー 講習・試験を実施する (JSAF RO規程に基づく措置)	5回実施	全国各水域	レース運営初級者向けのLROセミナーを全国5会場で実施。
<b>事業2)レースマネジメントクリニック</b>	・クリニック(講習)の開催をとおして、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。		
NRO更新のための義務講習になっているレースマネジメントクリニックを実施する。(JSAF RO規程に基づく措置)	5回実施	全国各水域	レースオフィシャルズを対象にしたレースマネジメントクリニックを5会場で開催する。(国体を控えた水域等4回、外洋1回)なお、NROは資格維持のために4年に一回は受講しなければならないことが規程で定められている。
<b>事業3)レースオフィサー更新講習</b>	・レースオフィシャルズを対象にした資格更新講習を開催する。		
ルール改正に伴うNRO更新講習を実施する。 (JSAF RO規程に基づく措置)	2回実施	オンライン開催	2021年は4年に一度のルール更新初年度にあっている。2020年度は更新講習会の開催をとおして、ルール更新の内容を周知することにより、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図ってきた。Cov-19の広がりなどによる救済措置として、2020年度中に更新できなかったレースオフィサーを対象に、資格維持のためのレースオフィサー更新講習を行う。
ルール改正に伴うARO・LRO更新講習を実施する。 (JSAF RO規程に基づく措置)	2回実施	オンライン開催	2021年は4年に一度のルール更新初年度にあっている。2020年度は更新講習会の開催をとおして、ルール更新の内容を周知することにより、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図ってきた。Cov-19の広がりなどによる救済措置として、2020年度中に更新できなかったレースオフィサーを対象に、資格維持のためのレースオフィサー更新講習を行う。
<b>事業4)国体進捗事業</b>	・国体開催について円滑な準備態勢の構築を図る。		
国体委員会の研修会にレースマネジメント委員会(国体小委員会)として参加し、開催に向けての準備調整について情報交換をする。	1回実施	未定	開催地の特性を考慮したレース公示、帆走指示書の作成等に協力し、大会を成功に導く。 各水域のレース委員を国体に派遣することで、全国のレース運営のレベルアップを図る。
<b>事業5)外洋レース/大型艇レースの全国統一運用の普及</b>	・		
外洋レース/大型艇レースの全国統一運用を普及させるために、外洋系加盟団体、特別加盟団体にレース/大会運営に関する情報提供、共有を行う。また、外洋系加盟団体、特別加盟団体とコミュニケーションを図るため、各団体の連絡レース担当者及びレースオフィサーの情報網を整備する。整備した情報網を使用し、大会/レース運営の全国統一運用に向けた活動を実施する。			外洋合同委員会(2022年2月)の参加及び、外洋系加盟団体、特別加盟団体とのコミュニケーションの創出 ・情報発信媒体(HPなど)の整備(更新作業) ・日常連絡活動(IRCレースファイルなど) ・その他、全国統一運用の普及に関する活動
<b>事業6)外洋艇/大型艇の大会運営に活用可能な資料の整備</b>	・		
現在ならびに将来について、外洋レース/大型艇レースの安全・公平・公正なレース/大会運営に活用可能な資料の整備を行う。			・外洋レース/大型艇レースを安全に運営するための技術の調査(トラッキングシステム、無線など) ・外洋レース/大型艇レースで適切な文書(レース公示(NOR)、帆走指示書(SI))を作成するための資料の整備 ・外洋ダブルハンドレース主催の注意事項の整理 ・ダブルハンド選考会への委員派遣(運営協力)
<b>事業7)IROクリニック・セミナーの開催</b>	・		
IROクリニックの開催	1回実施	神奈川県 江の島	2020東京オリンピックのレースマネジメントメンバーのスキルアップを図り、インターナショナル・レースオフィサーの資格取得を目指す。
IROセミナーの開催	1回実施	神奈川県 江の島	2020東京オリンピックのレースマネジメントメンバーのスキルアップを図り、インターナショナル・レースオフィサーの資格取得を目指す。
<b>事業8)公認・後援する大会開催に関する審査</b>	・		
公認・後援等が規則に則り適正に行われているかを審査する。	随時実施		公認・後援等を申請する団体からの書類をディンギー系・外洋系それぞれの担当者が審査を行う。
<b>事業9)TOKYO2020レースマネジメント研修の実施</b>	・		
	8回実施	神奈川県 江の島	TOKYO2020成功に向けてのトレーニング
<b>事業10)TOKYO2020コラボレーターフォロー事業</b>	・		
	4回実施	関東インカレ予選・決勝・女子インカレ等	TOKYO2020コラボレーター事業で活動の制限がされた学生への支援。
<b>事業11)全国レースマネジメント委員会</b>	・		
全国委員会の開催	1回実施	未定	・レースマネジメント委員会の事業実施に係る事項を協議する。 ・各水域からの報告及び意見交換。
委員長・小委員長会議の開催	1回実施	関東近郊	・レースマネジメント委員会の事業実施に係る事項を協議する。

ワンデザインクラス計測 委員会 委員長: 中村和哉

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1)</b> 規則管理 ・IMマニュアルおよび計測に関連したWS文書を翻訳し提供することにより計測員の資質向上を目指す。 ・競技者を中心としたクリニックを開催する。 ・ERSの翻訳(修正、更新)	通年		WSから発行される計測関連の情報を提供する
<b>事業2)</b> 公式計測員管理 ・艇種別加盟団体において公式計測委員の設置されていないクラスを支援する ・各クラス協会の新規クラス公式計測員の育成事業支援 ・ERSの講習会を実施する	通年		・公平で公正な計測を確保するため公式計測員の資質向上・養成する
<b>事業3)</b> IM養成支援 ・IM推薦、IM候補者への指導・支援 ・WSの情報を翻訳し提供する ・国際レベルの計測技術を維持する	通年		・IMの養成と計測技術の向上を支援する
<b>事業4)</b> IHC管理 ・セールメーカーでのIHCの運用を監査する ・セールメーカーの要請に基づくIHCステッカーの手配	通年		・IHC制度の管理と運用を行う
<b>事業5)</b> 国体計測 ・国体等の大会計測の実施を主催団体と調整し実施の支援を行う ・テクニカル委員会および計測準備作業のマニュアル化を進める	通年	三重県、栃木県(千葉県)	・国体等における大会計測の精度を管理し公平公正な計測を行う
<b>事業6)</b> 外洋計測 ・パリ・オリンピックに向けての支援 ・外洋艇の計測に関する情報提供と支援	通年		・外洋計測委員会と連携し、外洋計測の支援を行う
<b>委員会基本活動</b> ・定例委員会の開催、および関係会議への出席、HP掲載内容の管理 ・クラス協会との業務委託契約の締結 ・日本セーリング連盟公式計測員規程 改定案の整備 ・RRS 50.1(c)のクイック・リリース式トラピーズ・ハーネスの調査及び、情報提供する(2023年1月1日より発効される予定) ・個人用浮揚用具(PFD)について、クラス規則での適用状況を調査する	通年		・上記事業の推進を管理し推進すると共に、委員会全体の課題に対して取り組む

普及指導委員会 委員長: 川北達也

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>事業計画1 指導者育成関連事業:2関わり続ける①より健全なセーリング文化の醸成、③普及や強化を担う所属団体の支援、3もっと強くなる①ジュニアから連続性のある強化</b>			
<b>事業1) 専門科目講習会の開発/改定&lt;継続&gt;</b>			
・コーチⅣ専門科目講習会(JSPO委託事業) 実施プログラムの改善	4月上旬	-	JSAF指導者の行動指針や行動規範実現のため、2019年度より改定されたJSPO指導者養成制度に合わせて、「JSAF指導者育成体系」に基づく新カリキュラムに準拠したコーチⅣの実施プログラムの策定と具体的教材開発
・コーチⅡ専門科目講習会(JSPO委託事業) 実施プログラムの改善	5月上旬	-	JSAF指導者の行動指針や行動規範実現のため、2019年度より改定されたJSPO指導者養成制度に合わせて、「JSAF指導者育成体系」に基づく新カリキュラムに準拠したコーチⅡの実施プログラムの策定と具体的教材開発
・コーチⅢ専門科目講習会(JSPO委託事業) 実施プログラムの改善	2022年2月上旬	-	JSAF指導者の行動指針や行動規範を浸透、拡大するための改定及び新規教材開発
<b>事業2) 公認指導者の養成&lt;継続&gt;</b>			
・コーチⅡ専門科目講習会(JSPO委託事業) 開催実施	前期:10/2~3 後期:10/16~17	参加者の地域性を考慮	質の高い指導者を育成することにより、プレイヤーの成長性やセーリング継続性の向上を目指す。また、指導者自身の成長を促す。
・コーチⅣ専門科目講習会(JSPO委託事業) 開催実施	前期:10/23~24 中期:11/27~28 後期:12/11~12	参加者の地域性を考慮	質の高い指導者を育成することにより、プレイヤーの更なる飛躍や人間力の向上を目指す。また、指導者自身の成長を促す。
・公認指導者養成講習会 共通科目Ⅲへの講師派遣(JSPO主催事業)	未定	-	委員内の指導者のファシリテーションスキル向上と、専門科目との整合性向上、先進的教育ツールの習得を目指す。
・コーチデベロッパーの育成のための外部講習会/セミナー参加	未定	-	指導者講師の継続的コーチングスキルやノウハウの向上による質の高い講習会の提供
<b>事業3) 公認指導者の継続的レベルアップ&lt;継続&gt;</b>			
・更新研修の受講促進<継続>	8月	-	JSAF指導者の資格継続のため、および学びの継続ができるように指導者資格更新に必要な講習会案内と加盟団体主催講習会の更新研修認定。
・指導者リストの整備<継続>	6月	-	JSAF会員管理システムに登録し、本人がマイページから確認できるようにするとともに、会員登録継続に貢献する
・公式サイト委員会ページを活用した指導者への指導用Webコンテンツの開発	10月	-	指導方法やコーチング成功例などの掲載により、JSAF指導者が学びの継続ができ、質の向上を図れる
・公式サイト委員会ページでの展開情報の掲載	都度	-	指導方法やコーチング成功例などの掲載により、JSAF指導者が学びの継続ができ、質の向上を図れる
・公式サイト委員会ページでの指導者コミュニティの維持管理	都度	-	JSAF指導者コミュニティにて独りよがりな指導や指導者の悩み事を解決したり、新情報を取得できる場を提供したりすることで、学びの継続を支援する。
・上位団体から受けた指導者に関する情報展開	都度	-	様々な指導者育成の支援プログラムや助成事業が来るものを、的確に対象候補者に展開するもの。場合によっては、申請支援アドバイスを行う。
<b>事業計画2 安全推進事業:2関わり続ける①より健全なセーリング文化の醸成、②海洋教育やマリンスポーツと連携した社会貢献、③普及や強化を担う所属団体の支援</b>			
<b>事業4) 安全情報の管理と展開&lt;継続&gt;</b>			
・事故やヒヤリ/ハット情報を収集と情報展開	都度	-	事故報告書回収拡大に向け、もっと現場にメリットが判るような施策の検討展開実施。
・安全備品情報の展開	都度	-	JSAF公式サイト上の委員会ページを活用し、指導者の安全備品の実態調査を行い、安全備品活用の実行度を上げていく。
・練習海面の安全基準チェックリスト雛形策定と活用ガイダンスの展開	都度	-	各地の練習海面の安全基準チェックリスト策定に向けたガイダンスを作成展開し、当年度開催の指導者講習会でも周知徹底する。
<b>事業5) バッジテスト資格管理&lt;継続&gt;</b>			
・検定登録料のJSAF納入金額と報告書管理	都度	全都道府県	47都道府県の検定実施状況の把握と入金管理。標準フォーム使用率100%を目指し、作業工数削減も図る。
・バッジテスト講習会及び検定試験の実施状況と合格者リスト一覧を作成	都度	-	2021年度に加え、2017、2016年度の認定者リストを作成し、会員管理システムに登録、マイページから確認できるようにする。また、会員登録に関する確認も行う。
・団体参加条件以外のバッジテスト資格活用例の収集、整理	都度	全都道府県	バッジテストの価値向上に向けた活用情報の収集と展開
・バッジテスト検定員リストの整備	~9/末	全都道府県	2018年度に作成した検定員リストをメンテナンスして、検定員の資格および会員登録状況を管理する。
・バッジテスト検定員の資格要件の再設定	~3/末	-	来年度に、バッジテスト検定者活動実態調査を行ったのち、資格要件案を策定し、全国に打診する。2022年度には改めて資格要件を見直し、規定化する。
・バッジテスト規定の改定	~3/末	-	特にStart Sailing層に焦点を当てて、楽しくセーリングを上達できるように、バッジテスト検定内容と実施方法を見直す目的で、資格活用の事例収集や要望の収集を行う。2022年度には検定員資格要件と併せて規定を改定する。
<b>事業計画3 セーリング普及事業:1もっと身近になる①世一般の認知・関心の向上、②気軽に始められるモデルづくり、③ファン拡大を通じたJSAF会員増加</b>			
<b>事業6) Start Sailing機会と価値の可視化&lt;継続&gt;</b>			
・セーリングを知る・観る・体験できる機会を可視化し、いつ、どこにいけば体験できるのかが分かるようにする。			
・Start Sailing コンテンツの更新	随時	公式サイト	2020年度に準備したページおよびコンテンツの追加・更新を行うことで、新規に興味を持った人へ、更なる理解と次のステップ(試乗等)への誘導を行う
・普及ツール制作	4月	-	普及ツール(≒普及促進チラシ)を制作し、Start Sailingを推進するための導線とする
<b>事業7) 加盟する団体の普及活動支援&lt;継続&gt;</b>			
・「海と日本プロジェクト」企画申請と参加団体実施支援(日本財団委託事業)	開催実施6~8月 企画申請10~11月	未定	オリンピックの前後の時期に、コロナ禍でも実施できるような、少人数でかつ短時間で完了するイベントを多箇所で開催する企画に変更する。これにより、他の普及事業と連動させ、現場の負荷の低減とセーリング開始に影響を与える。
・全国の成功事例の特定とモデルケース化	9月	-	新規参画者の増加に成功したベストプラクティスの言語化と展開
<b>事業8) イベント企画・展開&lt;継続&gt;</b>			
・ポードショー-JSAFブースの企画と実施	4/15~18	横浜ベイサイドマリーナ	イベントを通じて子供&保護者の時期開催イベントへの興味喚起を行い、新規参画者候補を獲得する
・陸上セーリングイベントの企画と機材準備	5月	-	子供&保護者の興味喚起ができるアーバンイベントに採用するアトラクションとしてランドOP帆走の安全性テストと実施要件設定を行い、新規参画者候補を獲得を目指す
<b>事業9) 育成教材の企画・開発&lt;継続&gt;</b>			
・選手用教材の企画開発	~3/末	-	選手向けの学習素材の提供を通じて、セーリングを楽しみ、続けやすくする
・指導者用教材の企画開発	~3/末	-	指導者向けの指導教材の提供を通じて、選手がセーリングを楽しみ、続けやすくする
<b>事業計画4 組織活性化事業:2関わり続ける①より健全なセーリング文化の醸成、②海洋教育やマリンスポーツと連携した社会貢献、③普及や強化を担う所属団体の支援</b>			
<b>事業10) JSAF国際人材育成制度(仮称)の策定&lt;継続&gt;</b>			
・World Sailingや他国際団体などの情報収集	-	-	将来JOC/NFを代表LIOC、IF/AF等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員、または国際競技大会のスポーツディレクター等として、その団体や組織の政策決定過程における活躍が期待できる者を育成する事を目的とし国際的な感覚を持ったNFの組織運営や指導体系との連携を図る
			国際人材育成制度策定に向けた情報収集や書籍翻訳等を行う。

・JSAF国際人材育成制度(仮称)の策定	-	-	これまでの修了者たちを中心にJSAFとして国際人育成パスウェイや、各事業の特性に合わせた募集要件などを検討し、育成制度を策定する。 検討対象として、World Sailingのスカラシップ、JOC国際人養成アカデミー、JOCコーチングアカデミー、JOC国際人材海外派遣事業、スポーツ国際競技団体派遣事業など
<b>事業11)JSAF国際人材育成制度の展開&lt;継続&gt;</b>	・国際的競技水準を踏まえた強化・育成・普及ができるプロフェッショナルなコーチを育成・養成する。		
・JSAF国際人材の募集推進	-	-	JSAFとして、下記事業への派遣を前提にプロモーションツール等を開発し、次年度に向けた募集活動を推進する。 World Sailingのスカラシップ、JOC国際人養成アカデミー、JOCコーチングアカデミー、JOC国際人材海外派遣事業、スポーツ国際競技団体派遣事業など
<b>事業12)女性普及拡大&lt;継続&gt;</b>	・女性メンバー数の増加を目的としてレディース委員会との連携をはかる。		
・女性アスリート/指導者の環境整備支援	2020年度-2021年度	-	スポーツ庁委託事業として実施される日本体育大学の「女性エリートコーチ育成プログラム」の募集に応じて、対象者の募集と申請支援、選定された場合のOJT支援を行う。 「女性エリートコーチ育成プログラム」2020年度から受講中の対象者を、関係委員会と協業でJSAFとしてのサポートを継続する。
<b>事業13)セーリングを支える委員会活動の活性化促進&lt;継続&gt;</b>	・他委員会や団体と協業することで、JSAF実施事業の質的向上と委員会ノウハウ交流を目指す。また、JSAFの中長期計画の作成や事業実施に向けた活動を行う		
・中長期計画策定支援	～3/末	-	JSAFビジョンに基づく中長期計画の策定について、普及という観点と、選手強化に向けた指導者のスキル向上という観点で、中長期目標や実行計画の策定に関与する。
・委員会メンバーの成長支援とメンバー拡大	-	-	リーダー制を敷いて2年目になるが、各項目で、リーダーシップを発揮して活動できるように体制を推進。各リーダーのもとで、実施策を推進している。専門性を持ったメンバーが、増加したので、効果を期待中。更に、メンバー拡大を継続する。

**国際委員会 委員長: 望月宣武**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1)</b> 国際機関ポスト獲得・国際会議派遣 【具体的活動内容】 ・World Sailingのミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する。 ・ASAF(アジアセーリング連盟)の年次総会及び臨時総会に委員等を派遣する。 ・ASAFの2021-2024年の役員及び委員の候補者を推薦し、ポストを獲得する。	通年	アブダビ等	・国際社会における日本の地位向上をはかる。 ・国際機関の意思決定において、情報を収集し、他国と協調・連携し、アジア及び日本の利益を反映させる。
<b>事業2)</b> スポーツ外交事業 【具体的活動内容】 ・JICAの民間連携や外務省SFTを活用し、コーチ派遣又は選手・コーチ招聘を行う。	通年	未定	・他国との親交を通じて国際社会における日本の地位向上をはかる。
<b>事業3)</b> ワールドカップ大会・東京オリンピック開催協力、海外チームおもてなし事業	6月～8月	江の島	・他国との親交を通じて国際社会における日本の地位向上をはかる。

**医事科学委員会 委員長: 山川雅之**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1)</b> アンチ・ドーピング(AD)活動の推進 *アンチ・ドーピング小委員会が主体			
アンチ・ドーピングの指導・啓蒙			・ドーピング検査に対するNAとして参加 ・選手、コーチ、監督、指導者へのアンチ・ドーピングの指導・啓蒙 ・スポーツファーマシストの育成 ・アウトリーチ活動の推進
<b>事業2)</b> セーフティーセーリングの推進	2021年7月24日～8月5日	オリンピック江の島セーリング会場	アスリート用診療所、セーリング競技会場ドクターポットへの医師、看護師の派遣 ・競技会における安全体制の指導、助言・安全講習及び公認コーチ講習に講師の派遣・選手の健康管理、外傷に対する相談への医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる対応・海外派遣選手に対する医学的指導、および選手、コーチからの相談・要望に対するLINE、メールによる対
<b>事業3)</b> 医事科学委員会活動の活発化			
セーリングスポーツを支える他委員会、組織との医科学面での協力、連携			・普及指導委員会、団体委員会、オリンピック強化委員会との連携 ・東京オリンピック組織委員会、ワールドカップ実行委員会への医療協力 ・ワールドセーリング医事委員会との連携(メディカル・インフォメーション)
<b>事業4)</b> その他			・公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト 公認スポーツ栄養師、公認トレーナー養成講習会受講のJ-SPOへの推薦および更新の手続きにより専門資格の育成

国体委員会 委員長：黒川重男

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>Vision Open Community/Easy Accessに関連する事業</b>			
<b>事業1)</b>			
国体開催事業 ・中央競技役員への派遣 ・国体運営方針に則った、現地主催団体との調整・協議 ・参加艇・運営艇の安全対策の推進 ・一般の認知・関心の向上に向けた「見える国体・見せる国体」推進 ・「残したいのはきれいな海」をスローガンにした環境啓蒙活動の推進 ・開催地でのセーリングスポーツの普及推進 ・少年種目(中三)参加の推進	2021年9月～10月	・三重 ・栃木	・三重国体セーリング競技会・栃木国体セーリング競技リハーサル大会に関し、開催地所属団体の支援を通じ、両大会の確実な成功を図る。
<b>事業2)</b>			
国体開催準備支援事業 ・円滑な大会運営を目的とした研修会開催 ・国体運営方針に則った、現地主催団体との調整・協議 ・中央協議団体としての国体開催予定地の視察、国体開催に関する指導・助言 ・開催予定地による国体準備の支援 ・開催予定地での行政・セーリング関係者向け合同研修会の開催	2021年4月～2022年3月	・三重 ・栃木 ・鹿児島 ・佐賀 ・滋賀 ・青森 ・宮崎 ・長野	・大会開催予定地所属団体への支援を通じ、今後予定される国体セーリング競技会の確実な成功を図る。
<b>事業3)</b>			
国体開催関連事業 ・県名・件番号の販売斡旋 ・国体ウィンドサーフィン級の年度登録・管理	2021年4月～9月		・関連した事業を通じて、国体セーリング協議会の円滑な大会運営を図る。

オリンピック強化委員会 委員長：斉藤 渉

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>Vision!もっと強くなる!に関連する事業</b>			
<b>事業1) 東京オリンピックにおける十分な成果の実現</b>			
東京オリンピック代表選手の海外主要大会(種目別ワールド、種目別欧州選手権等)への派遣	各主要大会開催前の現地練習期間を含む大会開催期間	各主要大会開催地	各選手のポジションを確認すると共に、海外のライバル選手の成長度合いの確認と代表選手が実施すべき改善点の把握。
東京オリンピック代表選手に対する国内練習会・合宿の実施	5月、6月	江の島、葉山	東京オリンピック本番の海面にて、海外のオリンピック代表選手と共に模擬レース等の練習を行うことで、海外ライバル選手の強みと弱みを最終的に確認し、オリンピック本番での戦略を構築できる。
<b>事業2) 2024パリオリンピックを含む次世代アスリートの発掘・育成・強化</b>			
有望なユース選手に対する「HOPE育成プログラム」の実施	約1週間/月	和歌山NTC、沖繩(冬季)	2021年1月より開始した「HOPE育成プログラム」は、帆走技術のみならず、フィジカル、ルール、気象、栄養等を備えた総合プログラム。このプログラムにより、偏りのない知識とスキルを備えた優秀な選手を複数輩出できる。
有望なユース選手の海外主要大会(種目別ユースワールド等)への派遣	各主要大会開催前の現地練習期間を含む大会開催期間	各主要大会開催地	各選手のポジションを確認すると共に、海外選手との違いの確認と参加選手が実施すべき改善点を把握できる。
2024パリオリンピックを目指すHOPE選手およびシニア強化選手の海外主要大会(種目別ワールド、種目別欧州選手権等)への派遣	各主要大会開催前の現地練習期間を含む大会開催期間	各主要大会開催地	各選手のポジションを確認すると共に、海外上位選手との違いの確認と参加選手が実施すべき改善点を把握できる。
国内での練習会、派遣前合宿、トライアル選考合宿、コーチ派遣等の実施	随時	和歌山NTCを含む、各水域	・主要大会前後の合宿では、大会前のスキル・チェックと大会後のフィードバックにより、選手への気づきを提供できる。 ・その後の練習会にて、認識された改善点を克服。 ・その他、トライアル選考の合宿および各水域での育成・強化活動のサポートにより、選手発掘と水域のレベルを向上できる。
<b>事業3) 強化活動に関連した外部団体・委員会との連携による強化環境の構築</b>			
JSAF各委員会(レースマネジメント、ルール、普及指導ほか)の専門スタッフ参加による、高レベル環境下での練習会・合宿の実施	随時	和歌山NTCを含む、各水域	実践しながらのコース設置、オンザウォーター・ジャッジなどを練習会に採り入れることで、レース本番相当の実力の確認が、国内での練習会・合宿にて実施可能となり、選手の課題を明確に抽出できる。
各クラス協会と連携した、有望と目される選手の情報共有、育成プランと分担等の協議遂行	随時	—	各クラス協会による選手発掘の機会を逃さず採り上げることで、有望選手の逃れない発掘が可能。
企業およびスポンサーによる、外部コーチ招聘や活動資金援助を含む支援活動の実施	随時	—	今後急速に伸びる可能性のある選手に対して、優秀な海外等のコーチ招聘や、活動資金援助により、より結果に結びつけることが可能。
<b>事業4) 外部団体等との連携によるパフォーマンス評価の実施</b>			
フィジカル、GPSトラッキングや、風、潮流等、レースに勝つために必要な情報を提供してくれる外部企業・団体との協業	随時	—	選手のフィジカルコンディション、帆走技術、コース戦略などの定量的な分析や、潮流等の傾向を把握してレース練習を行うことによる、レース・パフォーマンス向上が図れる。
<b>事業5) 選手が持つべき社会的責任の啓蒙活動の実施</b>			

コンプライアンス、危機管理、ドーピングコントロールなどの情報の入手と選手・コーチへの提供 <b>Vision! もっと身近になる!!に關連する事業</b> <b>事業6) メディア含めた広報活動への積極協力</b>	随時	-	大会への参加および成績を残すための基本事項やリスクの認識と正しい知識の選手・コーチとの共有により、選手のパフォーマンスを正しく成績に反映することが可能。
取材依頼、広報活動、スポンサーからの協力要請等に対する積極的な協力	随時	-	セーリング競技が魅力的なスポーツとして採り上げられることにより、セーリング人口の増加に寄与できる。

**ジュニアユースアカデミー 委員会 委員長: 中村 公俊**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに關連する事業</b> <b>事業1)ジュニアユースセーリングシーマンシップアカデミー事業</b>			
テキストの発行			
アカデミーコーチバンクの構築			
アカデミー事業の全国展開	通年	ジュニアユースセイラーが活動する全国の水辺	シーマンシップを啓発することによるセーリング人口の拡大及び競技力の向上
コーチ研修会の開催	指導普及委員会との調整により年1回	神奈川県葉山港(予定)	コーチ力向上によるジュニアユース育成環境の向上

**キールボート強化委員会 委員会 委員長: 金子純代**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに關連する事業</b> <b>事業1)</b>			
大学対抗&U25マッチレース選手権2020開催に向けての支援協力活動	3月	愛知県	25歳以下の若手セーラーが全国から集まり、キールボート艇に接して色々な艇種に幅広く活動できる
<b>事業2)</b>			
イタリアで行われるチームレースへの日本代表チーム選考・派遣及び支援 学生世界選手権の支援	6月 未定	イタリア 未定	チームレースというジャンルに、日本チームとしてスキルアップを計る 若手セーラーが世界のヨットレースに接し、他国のセーリング環境に接することができる
<b>事業3)</b>			
伊藤園女子キールボートレース運営サポート	11月	神奈川県	あらゆる種目男女女性セーラーを集めて、女性セイラーのスキルアップを計る

**オリンピック準備 委員会 委員長: 河野 博文**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに關連する事業</b> <b>事業1)</b>			
World is One並びにオリンピックの成功	2021年6月~8月	江ノ島オリンピック競技会場	人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証として、両大会に於ける日の丸セーラーズの活躍と万全の競技運営を目的として、その成功に尽力する。 前年に引き続きレースマネジメント委員会と協力し、国際的に通用するレース運営委員の要請支援、並びに大会開催を通じて経験を積んだレースオフィシャルズ、ボランティアの確保育成に努める。 World is One実行委員会への負担金(約34百万円)の支出・人的支援 組織委員会がJTB等と提携して展開するオリンピックに於けるセーリング競技の観戦艇(食事付き)チケットを確保し、選手関係者やスポンサーを中心に一部ご招待を含め優先販売を行う。 オリンピックに向け選手壮行会・祝勝会を行うほか、オリンピックメダリストへの報奨金を含め、総額15百万円の報奨金を予算計上する。 2024年オリンピックを見据え、日の丸セーラーズスポンサーのVIK等を活用し、次代を担うユース世代の育成支援を行うほか、外洋キールボートメンバーとも積極的に協働を図る。
<b>事業2)</b>			
SNSを活用したセーリングファン層の掘り起こし	前年度に引き続き通期	全国	より多くのセーリングファン層の掘り起こしを目的として、前期終盤から始めたSNSを活用したセーリング動画配信によりセーリングサポーター層の開拓を図る。 World is Oneを始めとした日の丸セーラーズが活躍する国際レースの映像を基に動画を作成し、それらをYou Tube.Twitter.Facebook.Instagramなどにアップし配信し、セーリングサポーター層の開拓につなげる。
<b>事業3)</b>			
オリンピック準備委員会の解散とマーケティング機能を強化した新組織への継承	2021年下半年		5年間に上『日の丸セーラーズ』をご支援頂いたスポンサーへ、オリンピック観戦のご招待の他、感謝を込めた記念品を寄贈するほか、一部記念品の販売を行う。
<b>事業4)</b>			
「日の丸セーラーズ」並びに大会の周知・広報	2021年上半年		日の丸セーラーズウェブサイトの運営 日の丸セーラーズスポンサーのVIKを活用したWorld is Oneの広報を目的とした交通広告用ポスター、車内つり広告などの制作と展開

外洋常任 委員会 委員長: 馬場益弘

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1)セールナンバー普及拡大事業</b>			
対象艇を拡大し、全国の大型艇・外洋艇にセールナンバーを発行する 外洋艇のセールナンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。 その実務を行うために艇登録事務局を設置する。	通年	全国	セーリング組織の拡大・強化
<b>事業2)オフショアレース支援と世界選手権派遣事業</b>			
オフショアレース支援と世界選手権派遣事業 オリンピック種目となったオフショアレースとその前哨戦の世界選手権を見据え、国内長距離オフショアレースおよびダブルハンドを中心とするショートハンドのオフショアレースの一層の活性化をはかると共に、世界選手権への派遣を支援する。 ・世界選手権に選手を派遣する。(国内選考レース開催を含む) ・JSAF共同主催のバルレースを支援し、世界で戦える選手を育成する。(小笠原レースはコロナ禍を踏まえて中止) ・多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを設定していく。 World Sailing、IRC、ORC等の各種会議への派遣、国際的な情報交換、情報収集	通年	国内 マルタを中心として地中海	オリンピックを見据えた外洋レースのレベルアップ
<b>事業3)加盟団体との関係強化事業</b>			
外洋加盟団体との関係強化を目的として、外洋加盟団体会長会議の開催による連携強化を図る 外洋加盟団体会長会議を年2回開催する。(9月、1月) 外洋常任委員会を開催する。(年7回程度) 外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。	随時	東京及び当番地域	加盟団体との連携強化 外洋のレース、艇登録事務等の円滑な推進
<b>事業4)外洋艇安全確保推進事業</b>			
外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進 外洋艇の安全確保、安全情報の交換 ヨットの安全に関する法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する レースでの安全確保の指導 万が一のための主催者保険加入	通年	各地	海上での安全確保 ヨットの安全に関する法制度の改善
<b>事業5)艇と乗員のマッチングシステム</b>			
艇と乗員のマッチングシステム ヨット乗りたい人と、メンバーやクルーで乗艇可能な艇やグループとを紹介するシステムを検討する。 当面は、ホームページに募集掲示板的な機能を持たせる。	通年	jsaf	ヨットに乗りたい人と、乗艇可能な艇やグループをつなぎ、生涯スポーツ、生涯レジャーとしてのヨット界の強化を図る

外洋計測 委員会 委員長: 八木 達郎

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>外洋計測委員会 事業</b>			
<b>HMC事業1)</b>			
外洋専門委員会への派遣	通年	国内	レーティングルールの持つ意味と役割を各種専門委員会に啓蒙する。また外洋計測委員会として技術的な支援が必要な場合の協力も行う。
<b>HMC事業2)</b>			
外洋合同委員会の開催	通年	国内	MNAとして国際レーティングルールの「IRC」をメインレーティングとした維持管理を行う、また「ORC」は同時にその技術を継承する。「PHRF」はヨットレースの底辺を支える「オープンレース」やローカルな「クラブレース」のために支援する。
<b>HMC事業3)</b>			
外洋計測委員会の開催	通年	国内	毎年の「ルール」の変更の確認を行う、また業務の流れ及び役割分担について問題があれば協議する。
<b>IRC委員会 事業</b>			
<b>IRC事業1)</b>			
IRC 証書発行	通年		国内メインレーティングであるIRC証書(以下:証書)を発行して、各地で開催されるレースへの参加者の為に公平・公正な証書を維持し、参加者が楽しめる環境をつくる。計測員を派遣してより精度の高い証書の発行をはかる。テクニカルコミッティーによる入力データと出力データのチェックを行い、より正確なデータとする。証書・申告書等のデータを管理する。申し込み受付から、証書発行請求書まで取得者をサポートする。
<b>IRC事業2)</b>			
IRC 普及活動	通年		各地で開催されるレースで、IRC規則の普及をはかる。ルールの使用や運営等の温度差を無くし、より普遍的な共通認識を持つ為に主催者の要請に基づきメンバーを派遣する。クラブ等で行われるレースに関して、現在JSAFでの艇登録制度の改正も検討されている事を踏まえ、RORCで試験運用されている、IRC GOの日本国内での採用を考慮した検証・クラブ等への啓蒙等の予算も考え
<b>IRC事業3)</b>			
規則等の管理・運用 HPの活用	通年		IRCルールおよび関連する規則等に注意を払い、改正された場合には直ちに入手し、必要があればこれを適宜翻訳して日本語版を発行して告知する。これらの公示方法としてHPに掲載する。HPへのバナー広告掲載で資金確保等を図る。
<b>IRC事業4)</b>			

計測機材の管理維持	通年	東海・関東	計測機材は、5トンと2台、12トン/20トンと1台ずつ合計4台を保有・管理をしている。管理場所は東海、関東で計測場所に発送する。それぞれの計測機材の定期的なキャリブレーションをイギリスのメーカーにて実施する。
IRC事業5)	・		
IRC計測技術の継承	通年		計測員からの質問等に対応し、計測マニュアル等を整備する、また新たな試みとして 計測ビデオを制作・整備していく。
事業6)	・		
国際会議への参加	10月	イギリス	IRC kongressにメンバーを派遣して、規則変更等に積極的に関与していく。現行規則での問題等サブミッションの提出を行っていく。現在検討されている、IRC GOIに関しては製作段階から積極的に意見等集約して関与していく。
事業7)	・		
JSAF専門委員会会議への参加	12月	東京	ルールの使用やレース運営等の温度差を無くし、より普遍的な共通認識を持つ為に各委員会の連携が必要となる。ERS等外洋艇に関する記載も増えて来ている現状での翻訳・資料制作に協力する。
IRC事業8)	・		
IRC委員会準備検討会	12月	名古屋	主要メンバーでのルール翻訳(解釈)、次年度に向けての資料等の最終確認作業。Zoom会議は出来ない対面での意思疎通をはかる。
IRC事業9)	・		
外洋合同会議	2月	未定	ルール変更の解説とその周知徹底をはかる。参加者からの質問、要望や意見の聞き取りを行い今後で反映させる為にメンバーを派遣する。今後Zoomでの開催が決まれば、メンバー派遣費等が抑えられる。
IRC事業10)	・		
IRC委員会会議	通年	基本はZoom	業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈、計測員の認定、国際会議の報告等 会議は適時開催する。Zoomを契約し運用を行っていく。
IRC事業11)	・		
IRCオーナーズ協会との協力	通年		委員会は引き続きIRCの普及のために、IRCオーナーズ協会と協力して各地のレースへのIRC採用を働きかけるとともに普及活動を活発化する。
<b>事業内容</b>	<b>時期</b>	<b>場所</b>	<b>期待する効果(成果)の概要</b>
<b>ORC委員会 事業</b>			
<b>ORC事業計画ー1 委員会活動の維持管理。</b>			
通年の業務でORCC及びORCI、そしてダブルハンドの証書の発給を適正に行う。ORC事務局、ORCレーティングオフィス、チーフメジャーが共同して、適正な証書の発給を行う。	通年	国内	国際的に広く使われているORCレーティングシステムを国内で展開して、ユーザーの対して 適正な証書の発給を行う。
<b>ORC事業計画ー2 計測員セミナー</b>			
受講希望者から選抜して、2名程度のセミナーを開催する。関東一か所、関西一か所の 合計二か所での開催を予定している。	コロナの影響で微妙だが 7月と11月の2回を予定している。	関西のマリーナ、関東のマリーナ	現在 ORCIの計測員は1名のみで 代替が聞かない。この状況を打破するために 2名ほど候補者を選定して これらの者に 計測技術、ルール等の講習を行う。
<b>ORC事業計画ー3 合同委員会会議</b>			
毎年開催される合同委員会に 2名のORC委員を派遣する。これはORCの世界状況、日本でのORCの運用、証書の発給状況、ORCスコアリングシステムの状況証書発行手続き等について 説明を行う。(毎年の定例行事)	2022年2月1日	未定	ORCレーティングシステムの採用レースを増やすとともに 各地の担当役員に対しての解説や説明を行う。
<b>ORC事業計画ー4 World Sailingno会議とORC会議に 委員を派遣。</b>			
例年開催されるWS及びORC会議への委員の派遣。	2021年11月		ORC会議での情報収集、ORC首脳との協議。日本状況の報告。ルールの変更に関しての情報収集。
<b>ORC事業計画ー5 ODC委員会への参加</b>			
毎年開催される会議への出席。ORC事業についての説明、世界のレーティングの動きに関して 状況の報告。 ODC会議へは ODC傘下のクラス協会として事業の報告、事務手続きの打ち合わせ。	2022年3月		世界でのレーティングの状況の報告を行う。 ODC会議へは 計測員の登録と確認。昨年はコロナの影響で開催されなかったもので、参加の必要度は高い。
<b>ORC事業計画ー6 ORC委員会 講習会</b>			
毎年開催する講習会。ORC委員会の中でのIMSルール、ORCルールの講習を行う。各委員が手続きやルールで 適正に業務を行えるように周知徹底を行う。2021年度の活動についての目標数値を決める。	2021年度12月	関東	ORC委員会の中でのルールの徹底と 委員会の中の手続きの確認。
<b>ORC事業計画ー7 計測機材の維持・拡充</b>			
ORC会が所有する計測機材は 2セット。東海と関西で保管している。傾斜試験に使うクリノメーターも2個管理している。これらの維持管理業務。	通年	東海、関西	機材管理は計測委員会の必要業務。IMS計測に適した計測機器の拡充を図る。

外洋安全委員会 委員会 委員長: 大坪明

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1) 外洋特別規定(Offshore Special Regulations)普及</b>			
1. Offshore Special Regulationsの翻訳と国内規定策定	通年		日本語訳版を発行することで、OSRへの理解普及促進を図る
2. OSR解説講習会の実施および講師派遣	2022年2月および加盟団体の要求があれば	リアル(会場未定)&ハイブリッド開催 予定	OSRの基本および改訂ポイントを、わかりやすくまとめた資料や実際の装備など用いて解説することにより、OSRへの理解普及促進を図る
3. SNSなどを利用したOSR内容解説。	通年	facebook上	実際のレース現場で体験したOSRへの誤解などを、SNSを用いてタイムリーにポイント解説することによりOSRへの理解普及促進を図る
4. OSRIに基づくWorld Sailing認定トレーニングの認可審査	通年		World Sailing認定トレーニングを日本国内で日本語による講習実施が可能になることで、資格取得に対する費用を低減や受講機会の増加が図れ、長距離レース参加へのハードルが下がる。
<b>事業2) 安全航行啓蒙</b>			
・航行時の事故防止および被害拡大防止を目的として、会員の安全航行に対する知識と意識の向上をはかる。			
1. 安全週間の実施	2021年4月、2021年9月		春と秋の2回、安全週間を設け、忘れがちな艇や装備の点検整備および乗員の訓練などを確実に実施するきっかけとして、安全航行に対する意識の向上を図る。
2. 安全講習会への講師派遣	通年		加盟団体からの依頼に応じて安全講習会へ講師派遣し、事故防止や安全航行に対する意識の向上を図る。
3. 安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ	通年		国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかけることにより、セーラーの安全性の向上や活動費用の低減などを図る。
4. 船舶安全航行に関わる情報収集および発信	通年		(公社)日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員や日本小型船舶検査機構の「評議員」に委員長が囑託し、関係官公庁との情報収集や上記諸法令改正の窓口として機能する。
5. 事故報告書(外洋艇関係)の収集/分析、事故予防に関する情報発信	通年		事故数や事故の内容を集計・分析し、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめる。
<b>事業3) 無線局の普及</b>			
・JSAFの資産である海岸局チャンネルを利用し安全の確保やレース利用による便益性恒常を目的として、船舶局開局および海岸局加入数の増加をはかる。			
1. 無線海岸局の管理 ・海岸局(VHF 71ch・74ch)の開設・継続・廃局認可審査 ・JSAF登録艇以外の船舶局(VHF 71ch・74ch)の加入認可審査	通年		JSAFの資産である海岸局チャンネルの活用を促進し、レース主催者の利用による便益性や安全性の向上を図る。
2. 無線船舶局の普及 ・無線免許取得の補助(民間業者とタイアップして免許取得講習会費用割引)	通年		上記無線使用に必要な無線士免許取得時の費用低減。レース参加者の利用による便益性や安全性の向上を図る。
<b>事業4) 外洋合同委員会会議</b>			
・外洋レースの全国均一化を目的とし、レース主催者(加盟団体)が適切なレース運営が行えるようにレース主催者(加盟団体)のスキルアップを図る			
規則改定やレースマネジメントのポイントを11つの会議にて実施。	2022年2月	リアル(会場未定)&ハイブリッド開催 予定	レース主催に関係する4委員会(レースマネジメント、ルール、外洋計測、外洋安全)が合同で実施することにより、レース主催者(加盟団体)は必要な情報をワンストップで収集可能である。レース主催者(加盟団体)にとって、効率的かつ深掘りに繋がる情報収集の場となる。

アメリカスカップ 委員会 委員長: 植松 真

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1) 出場斡旋・調査事業</b>			
次回アメリカスカップの動向と参加可能性その他周辺情報の収集・調査・検討を行う	通年		国際的に最高位のステータスのヨット・イベントであるアメリカスカップへの挑戦は、日本のヨット界の世界でのステータスを上げることとなる。

ジャパンカップ 委員会 委員長: 服部 好彦

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1) ジャパンカップ開催・運営指針検討事業</b>			
オフショアレースが世界選手権、2024パリオリンピック種目となったことを受けて、対応でき得る環境を整備する。当面は世界選手権、2024オリンピックに向けた選手強化につながる長期の構想で調査・研究し、ジャパンカップの開催方法を検討する。	通年		ジャパンカップ開催により、世界選手権・オリンピックレベルのオフショアレースに対応できる選手及びコーチ、運営スタッフ等の育成を図ることが出来る。

**障がい者セーリング推進委員会 委員長：高間信行**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXIに関連する事業</b>			
<b>事業1)パラリンピックにおけるセーリング競技の復活</b>			
(1)2021年に行われるワールドセーリングのPDP(パラリンピック・デベロプメント・プログラム)への受講(選手・コーチ)の参加を加盟団体、特別加盟団体へ促す。 (2)JSAF公認の全日本選手権、地方大会等の競技会を実現する。 (3)2021年パラセーリング国際大会の日本開催を成功させるために関係するJSAF加盟・特別加盟団体、行政を含めた関係団体と連携を図り準備を進める。 (4)2022年ワールドマスターズ大会で障がい者セーリング種目の成功に向けJSAF加盟・特別加盟団体、行政を含めた関係団体と連携を図り準備を進める。	通年	国内 シンガポール、イタリア(パレルモ)	2028年パラリンピック大会で障がい者セーリング種目復活 目標の大会に向け選手のレベルアップ
<b>事業2)障がい者セーリングの普及推進</b>			
(1)広報活動(JSAFホームページ活用) (2)体験会・研修活動(障がい者セーリングの発展振興、安全のため、障がい者セーリング行事運営についてJSAF加盟・特別加盟団体に向け研修や体験会を行う。) (3)全国障がい者スポーツ大会にセーリング競技をオープン競技として採用を実現するために開催地加盟団体等と連携を取り進める。 (4)全国障がい者スポーツ大会(2021三重大会)でオープン競技に採用されたセーリング競技の成功に向けJSAF加盟・特別加盟団体、行政を含めた関係団体と連携を図り準備を進める。	通年	国内 5普及強化推進拠点と関東以北	・障がい者セーリングへの理解が高められる ・研修・体験会を開催により障がい者セーリングの発展振興、安全、行事運営が活発化する ・国体開催県での障がい者セーリング普及活動が進む
<b>事業3)障がい者セーリングにおける強化推進</b>			
(1)強化種目の指定、強化フリートの指定し国際大会での順位向上を関係するJSAF加盟・特別加盟団体と協議し進める。	通年	国内 5普及強化推進拠点	5拠点における組織のスキルアップと選手強化

**海 その愛基金 海洋環境クリーンプロジェクト推進委員会 委員長：加山雄三 副：河野博文**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>海洋環境保全推進：2関わり続ける②海洋教育やマリンスポーツと連携した社会貢献</b>			
<b>事業1)海洋環境保全訴求ツール/コンテンツの開発</b>			
・訴求用パネルや配布用印刷物、動画コンテンツ等の制作	未定	-	イベント放映や、SNS等への掲載用の2種類の動画コンテンツ開発
<b>事業2)海洋環境保全イベントの企画/開催</b>			
・開発したツールを使って、JSAF単独、または加盟団体共催イベント実施による海洋環境保全訴求	年度後半	国内	・海洋環境保全活動の促進、およびJSAFの認知度向上
<b>事業3)他団体主催イベント出展による海洋環境保全の訴求</b>			
・地域企業や自治体との連携強化と、開発したツールを使っての海洋環境保全訴求	都度	国内	・海洋環境保全気運の高揚と、JSAFに関心を持つ人の増加
<b>事業4)海洋スポーツに関心を持つためのツール開発</b>			
・集客力向上のため、陸のイベント会場でも使用でき、セーリングに関心を持てる機材の開発			・海洋環境保全気運の高揚と地域企業や自治体への認知度向上

**ドーピング裁定委員会 委員会 委員長：棚橋善克**

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>ドーピング裁定委員会の開催</b>			
必要時、委員会を開催する	ドーピングの事実認定後	onlineを想定	

e-Sailing 委員会 委員長: 尾形依子

事業内容	時期	場所	期待する効果(成果)の概要
<b>VisionXXに関連する事業</b>			
<b>事業1) e-Sailing普及</b>			
一般の方向けPR セーリングイベント、大会等でのプロモーション活動	通年	オンライン(開催会場)	一般の方向けに紹介することでe-Sailingの普及よりセーリングファン拡大
「オープンエントリー練習会」企画運営、PR 日曜 20:00からの練習会の開催 SNS等を活用し、ルール、戦略戦術の紹介 日本VIRクラブの練習会の紹介と連携	通年	オンライン	・練習できない環境(悪天候や風待ち等)やミーティング時の効果的練習ツールとしてルールや戦略・戦術を学びセーリング競技力向上効果 ・セーリングの活動から一度離れた経験者が再び活動する際に気軽に係われる環境の提供による会員復活効果 ・学生の卒業、転勤、子育て等セーリング活動に関わる機会が減っても、e-Sailingを通じセーリングに関わり続ける環境の提供による会員離れ抑制効果
World is One エキシビジョン開催・支援 レースフォーマット、運営支援	6月	江の島(オンライン)	オリンピック種目も見据えたエキシビジョン開催状況をSNS等メディアで紹介することでe-Sailing、セーリング情報展開効果
<b>事業2) e-Sailing強化</b>			
・イベント企画開催 ※eSailing Japan cap開催、ネーションズカップ参戦準備支援			
Japan cap 開催・支援 JSAF主催大会としての開催準備、支援	9月	オンライン	全日本としてのe-Sailing大会開催によるe-Sailing競技力向上およびSNS等メディアで紹介することでe-Sailing情報およびe-Sailingを通じセーリング普及拡大の相乗効果
ネーションズカップ参画支援 海外の情報収集、WSとの連携支援	11月	オンライン	世界選手権に日本として選手派遣によるe-Sailing競技力向上およびSNS等メディアで紹介することでe-Sailing情報およびe-Sailingを通じセーリング普及拡大の相乗効果
<b>事業3) e-Sailing大会運営関係普及拡大</b>			
・レース運営体制拡大に向けた施策検討			
運営人員拡大施策 レースセット、リザルト(SAIRANKS)、オンライン会場(Discordサーバー)での運営について、レースに参戦しながら各ポジション運営者を体験(実践)し新規運営人員拡大を図る	通年	オンライン(開催会場)	e-Sailingレースの種類、レース(大会)開催数の拡大によるe-Sailing普及、e-Sailing競技力向上およびセーリングに関わり続ける効果
運営人員のスキルアップ施策 海外の運営状況、レースフォーマット、メディア関係を情報収集しレベルUPを図る	通年	オンライン	同上
<b>事業4) 他の委員会との連携</b>			
・			